

## 平成 28 年度 金光八尾中学校・高等学校 学校評価報告書

### 1. めざす学校像

本校では開校以来、『人はみな神の氏子である』という金光教祖の広大かつ自然な教えに基づき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、教育方針として「確かな学力」と「豊かな情操」を、教育理念として「人間平等の教育」「個性尊重の教育」「心を育てる教育」をそれぞれ掲げ、真に社会に役立つ人間の育成に努めている。

1. 人間平等の教育＝人間尊重・人間平等の精神を基に、情操豊かで確かな学力を培う。
2. 個性尊重の教育＝個性は他の人との比較ではなく、その人の内面にある素晴らしいものこそが個性であるとして、一人ひとりが持つ個性、特性を最大限伸ばす。
3. 心を育てる教育＝人は、お互いが助け合い、支え合って生きていることを認識し、相手を思いやる心、感謝の気持ちをもって他と接することができる心を育てる。

### 2. 中期的目標

「確かな学力」を身に付け「豊かな情操」を育むため、学校経営方針に沿って教職員が取り組みを進め、生徒の夢や希望の実現に努めることで、生徒には「来て良かった」、保護者には「行かせて良かった」、学校や塾の先生方には、「勧めて良かった」と評価してもらえる教育を目指す。

#### (1) 学校運営

- ①教職員間の連携
- ②安全対策
- ③設定目標自己診断による学校改革への意欲の向上

#### (2) 教育実践の充実

##### ①教科指導

- ・公開研究授業の実施
- ・授業方法・授業内容の工夫改善
- ・教科会等での自主研修の推進
- ・中学・高校が連動した指導
- ・大学入試制度改革についての研究

##### ②生徒指導

- ・挨拶運動の推進
- ・積極的な生徒指導の推進
- ・問題事象のない学校を目指す
- ・情報端末機器の適正な使用のための指導

<p>③進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路学習の充実</li> <li>・転学退学の防止</li> </ul> <p>④人権教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権意識の醸成</li> <li>・人権教育にかかる授業の工夫改善</li> </ul> <p>⑤家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会等の開催</li> <li>・ホームページの充実、学校通信・中学通信等の発行</li> </ul> <p>⑥広報・募集活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の魅力や特色の発信</li> <li>・教職員一丸となった広報活動</li> </ul> <p>(3) 意識改革と資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒による授業評価アンケート」等の活用</li> <li>・校長による教職員ヒアリングの実施</li> <li>・教科会、各部会、学年会等の定期開催</li> <li>・企画力の育成</li> </ul> <p>(4) 学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会の自主活動の推進</li> <li>・部活動の活性化</li> </ul>
---

### 【自己評価の結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>学校評価の資料とするため、「生徒の自己授業評価」「生徒による教員の授業評価」「教職員による学校評価」の3種類のアンケートを実施し、調査結果を職員会議等に報告する中でさらなる改善を求めた。</p> <p>学校運営については、教職員が連携・協力し、一定の成果を得て、大きな問題は生じなかったものの、少子化や教育改革が進む中で、更なる対策が求められている。とりわけ、英語教育やICT教育に対する保護者の期待は大きく、英語教育では次年度は新しい取り組みを進める予定である。</p> <p>一方、生徒たちの日々の授業では、教科に対する興味</p>	<p>3月13日に学校関係者評価委員会を開催し、意見交換を行った。委員からは学校運営は順調に行われており、中学・高校ともに募集定員を充足していることが評価されたが、今後さらに学校の魅力を高めていくよう要望された。</p> <p>すべての保護者は生徒の大学進学を望んでおり、生徒の力が最大限発揮できるよう指導をしてほしいとの意見が出された。一方、日々の学習と部活動、宿題などが過剰になることもあり、バランスのとれた学校生活ができるよう配慮を望む声もあった。</p> <p>昨年度の評価委員から意見の出した、個人ロッカーの設</p>

<p>や関心への深まりや、学習への意欲の向上に期待しているが、知識理解にとどまっていることが多く、さらに、指導内容の質が深まるよう研究していく必要がある。</p> <p>また、近年、部活動への加入率が低くなっており、加入率向上のためにもさらなる活動時間や活動内容の工夫が必要である。また、部活動や委員会活動など自主活動の活性化に向けた取り組みを進めていく。</p>	<p>置、グラウンドの整備、自習室や教室等の改修など、教育環境整備を積極的に行ったことが、生徒の学習意欲につながっているとの評価も得られた。</p> <p>また、大学の入試改革については、親自身も学ぶ機会を設定してほしいことや、英会話やプレゼンテーションなど将来生徒が直面する社会をみすえた指導を進めてほしいとの要望も出された。</p>
--	--

### 3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学 校 運 営	ア、教職員間の連携	ア、報告・連絡・連携・相談を徹底し、組織力の向上を図る。	ア、中学部会・高校各学年会を毎週1回、定例的に開催する。	ア、週一回の定期開催は確実に実施できた。情報の共有や連携が進んだ。今後も引き続き実施する。
	イ、安全対策	イ、警察署・消防署等から外部講師を招き、交通安全指導・防災訓練を実施し、生徒の安全を確保する。	イ、交通安全指導・防災訓練を年1回以上実施する。	イ、交通安全指導を9/27（自転車を中心に指導）に、防災訓練を9/1（避難訓練）に実施。警察署員・消防署員からの指導を受けた。次年度も引き続き実施する。
	ウ「設定目標自己診断」による学校改革への意欲の向上	ウ、「設定目標自己診断」を実施し、教職員の学校教育への改善意欲を向上させる。	ウ、管理職による全教職員へのヒアリングを年1回以上実施する。	ウ、各教員が設定した目標を、管理職が全教職員にヒアリングし指導助言した。次年度も引き続き実施する。
教 育 実 践 の 充 実	<教科指導> ア、公開研究授業の実施	ア、教員の授業力や指導力の向上のため、定期的に公開研究授業を実施する。	ア、中学・高校別に教科を指定して三教科において研究授業を実施する。年に一度は外部講師からの指導を受ける。	ア、6人が研究授業を行った。12月には外部講師を招いて研究授業と学級経営についての講話をいただいた。来年度も実施し、研究を深める。
	イ、授業方法・授業内容の工夫改善	イ、教員の授業力の向上のため、研究授業に取り組む。	イ、日々の授業に対する生徒の満足度評価が75%以上にする。	イ、興味・関心を持って授業を受けている生徒が70%となっており、アンケート等を分析し授業の工夫改善に努める。

<p>教 育 実 践 の 充 実</p>	<p>ウ、教科会等での 自主研修の推進</p>	<p>ウ、各教科で設定した研 究テーマについて実践 交流をする。</p>	<p>ウ、教科会等で年1回以 上の研修報告ととも に、研究テーマについ て協議する。</p>	<p>ウ、各教科で設定したテーマに 基づき教科会や部会で研究を 深めた。今後も引き続き実施 する。</p>
	<p>エ、中学・高校が連 動した指導</p>	<p>エ、教科指導・生徒指導面 において、中学・高校間 で段差のない指導を行 う。</p>	<p>エ、各教科のカリキュラ ムの連続性や生徒指導 等についての協議のた め、年度末に中学・高校 連絡会を実施する。</p>	<p>エ、学期ごとに開催する部会や 教科会で協議をした。次年度 も、引き続き連絡会を実施し 連携を深める。</p>
	<p>オ、大学入試制度 改革についての 研究</p>	<p>オ、大学入試制度研究会 等での研修内容を、学 年会等に報告・協議す ることで、制度につい て理解を深める。</p>	<p>オ、学年会等において、年 2回以上の研究テーマ について報告する。</p>	<p>オ、職員会議等で入試制度改革に かかる説明会を実施し、各学 年・教科へと協議を広げた。 次年度は校内に委員会を設置 し研究を深め、教職員に具体 的な課題意識を持たせ、実践 へとつなげる。</p>
	<p>&lt;生徒指導&gt;</p>			
	<p>ア、挨拶運動の 推進</p>	<p>ア、生徒会活動や部活動 の活性化を図り、「挨拶 がこだまする学校」の 実践に努める。</p>	<p>ア、生徒の9割以上が挨拶 していると感じる状況 にする。</p>	<p>ア、生徒の約9割が挨拶をして いると感じている。日常的な 挨拶運動として広がるよう次 年度も引き続き実施する。</p>
	<p>イ、積極的な生徒 指導の推進</p>	<p>イ、事後指導だけでなく 事前指導に重点を置 き、生徒との対話を大 切にした指導に努め る。</p>	<p>イ、登下校や学校内、授業 での教職員の声かけを 通して関係作りを進め る。風紀検査での違反 者が全校生徒の5%未 満にする。</p>	<p>イ、月1度の風紀指導での軽微 な違反者は5%以下であっ た。今後も引き続き0%を目 指し、積極的に教職員が生徒 に関わるようにして違反者の 減少を目指す。</p>
	<p>ウ、問題事象ない 学校を目指す</p>	<p>ウ、教員と生徒との望ま しい人間関係を構築 し、問題事象の減少に 努める。</p>	<p>ウ、生徒との信頼関係構 築のため、学期ごとの 個人懇談を実施する。</p>	<p>ウ、学期1回以上の個人懇談は 確実に実施できた。来年度も 引き続き実施していく。</p>
	<p>エ、情報端末機器 の適正な使用の ための指導</p>	<p>エ、入学時や生徒集会等 さまざまな機会にとら えて指導するととも に、家庭とも連携し、問 題事象の減少に努め る。</p>	<p>エ、生徒を対象に、年2回 以上の指導と、新入生 保護者を対象とした研 修会を開催する。</p>	<p>エ、年2回以上の指導は行っ た。また、保護者への啓発も 行った。問題事象は起こって いないが、今後も引き続き実 施していく。</p>

教 育 実 践 の 充 実	<p>&lt;進路指導&gt;</p> <p>ア、進路学習の充実</p>	<p>ア、生徒一人ひとりの個性を重視し、将来を見据えた進路希望の実現のための指導を行う。</p>	<p>ア、進路LHRの資料作成をする。生徒・保護者を対象に入試システム・進路状況等についての研修会を開催する。進学率を90%以上にする。</p>	<p>ア、作成した資料を進路LHRで活用した。1年間に一回以上外部講師から進路や入試状況について研修を受けた。次年度も引き続き実施する。進路指導に関する統合システムが稼働し、進路データの円滑な運用ができた。進学率は83.9%と目標を下回った。今後も各生徒の目標の実現に向けて継続した指導をする。</p>
	<p>イ、転学退学の防止</p>	<p>イ、「入学した生徒を卒業まで」を合い言葉に、保護者と連携し一人ひとりに寄り添った指導の徹底を図る。</p>	<p>イ、学期に2回以上の個人懇談を実施し、生徒との信頼関係を構築する。転・退率を2%未満にする。</p>	<p>イ、各学級とも学期に2回以上の個人懇談を実施した。転退率は1.5%（退学率0.4%）となり、次年度も保護者とも連携し、退学の防止に努めていく。</p>
	<p>&lt;人権教育&gt;</p> <p>ア、人権意識の醸成</p>	<p>ア、「いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ」のない学校づくりに努める。</p>	<p>ア、「いじめゼロ」を目指す。</p>	<p>ア、いじめの認知件数は0件であった。今後も教育相談員等と連携し、いじめのない学校づくりに努める。</p>
	<p>イ、人権教育にかかる授業の工夫改善</p>	<p>イ、生徒とともに考える学習形態・参加型学習の研究・実践に努める。</p>	<p>イ、人権教育推進委員会を毎月1回開催し、資料や指導方法・指導内容について研究・検討する。</p>	<p>イ、委員会を毎月定例で開催し、資料や指導方法・指導内容について研究し、指導案を作成した。次年度も、継続的に取り組みを進める。</p>
	<p>&lt;家庭との連携&gt;</p> <p>ア、保護者会等の開催</p>	<p>ア、各種説明会や保護者会を有効活用し、保護者との連携を図る。</p>	<p>ア、各学級において保護者会を年間2回以上開催する。</p>	<p>ア、中学、高校ともに保護者会を年2回以上開催し、保護者同士の連携も深まった。今後も引き続き実施する。</p>
	<p>イ、ホームページの充実、学校通信・中学通信等の発行</p>	<p>イ、ホームページの随時更新と「学校新聞」「中学新聞」等の定期発行を通して、学校の情報を積極的に発信する。</p>	<p>イ、各行事、トピックス等によるホームページの随時更新と、金光八尾新聞年2回、中学新聞・保健室便り毎月1回等、</p>	<p>イ、金光八尾新聞を1回、中学新聞・保健便りを毎月発行した。また、行事の情報を現地からホームページで発信し保護者からも好評であった。今</p>

<p>教 育 実 践 の 充 実</p>	<p>〈広報・募集活動〉 ア、学校の魅力や特色の発信  イ、教職員一丸となった広報活動</p>	<p>ア、学校案内・ホームページを活用するとともに、生徒の出身学校や塾等を訪問し、学校紹介をするとともに意見交換を通して学校の特色や進路実績等を発信する。  イ、入試広報部と中学・高校の教員が連携し、本校の取り組みや学校の魅力について発信する。</p>	<p>定期的な発行を行う。  ア、学校の特色・魅力や進路実績を発信することで、中学（70人）、高校（240人）の定員を確保する。  イ、オープンスクール・学校説明会・私学展等に、広報職員と教員が参加し、受験生や保護者に対して本校の魅力を発信する。</p>	<p>後もさらに充実していく。  ア、入学者は中学78人、高校287人となり、定員は充足した。今後も学校の魅力を発信し、定員確保に努める。  イ、教員が計画的に学校説明会等に参加し、受験生保護者に学校生活等について説明をした。今後も教職員が協力して取り組みを進めていく。</p>
<p>意 識 改 革 と 資 質 向 上</p>	<p>ア、「生徒による授業評価アンケート」等の活用  イ、校長による教職員ヒアリングの実施  ウ、教科会、各部会、学年会等の定期開催  エ、企画力の育成</p>	<p>ア、「生徒による授業アンケート」により教員の授業の実態を把握する。教科会等で調査結果を分析し、各教員が授業に生かす。  イ、校長のヒアリングを通して学校運営等について教職員と意見交換する。  ウ、教科会、部会、学年会を定期開催し、情報交換や、研修内容等について報告する。  エ、学校・学年行事等の実施後に、意見や改善点を集約し、行事内容のさらなる充実を図る。外部での研修を通して、学校運営への参画</p>	<p>ア、授業に対する生徒の肯定的評価が80%以上獲得できるようにする。  イ、校長と教職員が、年1回以上学校運営について意見交換する。  ウ、中学部会・学年会を毎週開催するとともに、教科会・部会を年3回以上開催し、意見交換をする。  エ、行事ごとに意見集約を行うとともに、教員の各行事への改善意欲が90%以上となるようにする。  外部研修・外部視察へ</p>	<p>ア、授業に対して肯定的な評価をしている生徒が90%以上であった。生徒からの評価が90%以下の教員には改善を求めていく。  イ、管理職で全教職員に面談を実施し、意見交換をした。今後も、学校運営に教職員の意見が反映できるよう努める。  ウ、中学部会や各学年会を毎週開催するとともに、教科部会・各部会を毎学期開催し、課題について協議した。今後も引き続き開催、意見交換をしていく。  エ、学校評価アンケートで学校行事への改善意欲のある教員が90%以上あった。今後も各行事の意見集約をすることで、改善に努めていく。  外部研修は、30人以上を超え</p>

		意欲を向上させる。	の参加者数が延べ 30 人以上になるよう積極的に参加を促す。	たが、時間的な余裕がないこともあり他の高校等への視察ができなかった。今後どのように進めるかを含め検討する。
学 校 行 事	ア、生徒会の自主活動の推進  イ、部活動の活性化	ア、生徒会や各クラブが主体性を持って、文化祭、挨拶運動、奉仕活動等を推進できるよう支援する。  イ、部活動を通して生徒の自主的な活動を推進させる。	ア、生徒の自主活動に対する肯定的評価が 80% 以上となる。  イ、部活動への入部率が中学で 80%以上、高校で 45%以上を目指す。	ア、自主活動の肯定的評価が 80%を下回った。生徒会やクラブ活動などが学校全体に広がらず、一部の生徒の活動になっていることから、生徒会の各委員等の活動を活性化させていく。  イ、高校では設定した入部率を達成できなかった。学習活動が中心になっているのが一因だが、今後、活動内容や活動時間をさらに工夫するとともに、部活動の意義についても啓発していく。